

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。黒岩幸生でございます。

東日本大震災から丸2年の月日が流れたところでございます。亡くなられた皆さん方に心からの御冥福と、そしてまた、一刻も早い復興を祈念いたすところでございます。

本日、私1番バッターということで、久しぶりでございますけれども、大変緊張をいたしております。と申しますのも、今や世界的に有名な樋渡市長さんに挑むわけでございますので、きょうは傍聴席にうちの身内一同寄せました。ごらんのとおり、空席を除けば満席という、たくさんの傍聴者の皆さんの力を得ながら樋渡市長に挑んでまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

冗談はさておきまして、先日テレビを見ていたわけでございますけれども、その中で園田天光光さんというんですかね、園田外務大臣の奥さんでございますけれども、現在94歳だということでございます。日本で初めての女性代議士になられた方ですね、代議士というのは衆議院ですけども、その方の対談を見ておまして、何人かで見えおったんですけども、そのときに園田先生がおっしゃるに、こうおっしゃったんですね。最近の議員はサラリーマン化していると。国会議員のことでしょうけれども、最近の議員はサラリーマン化しているとおっしゃった。そのとき、私の隣におった人が、名前は伏せますけれども、その方がサラリーマンと議員は違うとおっしゃったんですね。私ももちろんそのとおりだと思いました。しかし、その次言われた言葉が違うんですね。ぐさっと刺さりましたけれども、サラリーマンは8時から17時まで一生懸命仕事ばせんぎ給料ば削られる。休むぎ賃金カットされる、しかし、議員はたとえ一般質問を何もせんで家業に精を出しとっても賃金は減らん。どんだけ長期に休んでも給料も減らんやろうもん、こうおっしゃったので、ぐうの音も出なかったんですね。幸生、今度今までの一般質問を出せということでございましたので、命令を受けて、皆さん方の報告をしたいと思います。

24年度3月定例会の一般質問でございます。24年度というのは、この年最後でございますので、今回まで入れて、22、23、24と、計12回、今回まで皆さんの通告を入れて12回ということでカウントいたしております。見えるですね、見えんぎと思うて書いてきたんですよ。

12回が上田議員と宮本議員、11回が上野議員と黒岩、私ですね。10回が山口裕子議員、松尾陽輔議員、山口昌宏議員、谷口議員、江原議員、8回が平野議員、7回が山口等議員、山口良広議員、そして吉川議員、川原議員、松尾初秋議員、6回が朝長議員、5回が古川議員となっております。4回以降につきましては、25年度にまだまだ4回のチャンスがあるわけですね。皆さん丸々していただければ4回になりますので、これはあえてカウントいたしておりません。もし私がこのまま25年度の3月定例議会で一般質問することがあれば、全体を教えたいと思います。

そこで、市長にお伺いですがけれども、一般質問の回数と言っているんですけども、一般

質問と議会活動をどのように日ごろ思われているのか、答弁を求めたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まことに答えにくい質問ありがとうございます。

私は、掛け算だと思っています。幾ら数が多くたって、中身がなければだめだと思っていますので、誰がどうだとは言いませんけれども、掛け算だと思っています。

一方で、議会活動は、私も政治家ですのでよく思うんですけど、例えば、集会であるとか、あるいは各種行事への参加であるとか、あるいはひまわり通信を出されておりますけれども、そういう各種のチラシであるとかビラであるとか、そういったことの総合判断の中で有権者が決められるものだと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

ありがとうございます。

この括弧の中は討論回数なんですね。今、赤にしましたけど、実はこれで前と後ろに動かしているんですよ。だから、前は黒いパネルがございまして、その次のパネルに、ここで回しますと、赤くなるというふうにしております。全てこれで一般質問動いております。上田議員が11回、私15回ですね。これ討論回数です、反対、賛成ありますけれども、松尾陽輔議員が2回、山口昌宏議員が13回、谷口議員が4回、江原議員が23回、平野議員が22回、山口等議員が1回、山口良広議員が6回、そして吉川議員が2回、こう書いていますけど、松尾初秋議員が2回ですね、ここね。これを多い順に比べてみますと、こうなるんですね。

（発言する者あり）はい、すみません、間違うとるごたるですね。ここですね。ここ飛ばしますけれども、平野議員と江原議員で45回、そして黒岩から山口良広さんまでが45回、つまり反対、賛成の形でずっと議会は動いているんですね。だから、こういう形で動いているということを覚えていただければ結構だと思います。

一般質問については、先ほど市長が言われましたように、有権者が判断することだということでございますので、それくらいにしたいと思います。

今回、私、5件について出しておりますけど、2つ目のIT行政についてでございますけれども、実は北海道情報大学に行ったんですね。熊本の方をお願いをして、北は北海道から南は沖縄まで情報大学に行ってみたいということでIT委員会と会派で行ってまいりました。そのとき、これ皆さん何に見えますか。これ図書館なんですね。この窓の向こうに10万冊あ

るんです。それが自動的に出てくるというのを見まして、このパソコンで出るんですね。この窓つながりについて質問をしてまいりたいと思います。つまり、この自動書庫出納ステーションということで、ここから出入りをするんですね。つまり、パソコンという静から自動ステーションですから動へ、さらには進化していくナビ、これは2年ぐらいしょっちゅう私ここで話していますけれども、進化していくナビ、つまり行政ナビをここで開発しようということで、市長ぜひとも今回は一歩踏み出してほしいということで質問をしてまいります。

3つ目は、ごみ処理場建設についてでございます。

処理方式を決定し、これどこかの新聞で書かれましたけど、後で言いますが、まず目的を決めるんですね。資源化もいいでしょう、しかし、私が訴えてきたのは、平成22年の4月に広域圏議会議員になって訴えてきたのは松浦地区の安全・安心なんです。安全・安心、つまり松浦地区に処理場をつくりますので、その安全・安心について頑張るべきだということを訴えてまいって、処理方式が決まっていったんですね。もう1つは、4市5町の財政支出を抑制してきた。これは伊藤元康前局長が一生懸命力を入れたところなんですね、財政支出。これも後で時間があったら話をします。そういうのを3年間かけて検討してきましたので、そのことについて価値観の共有をしていきたいということで質問をしたいと思います。

さらには、放射能問題、この放射能問題ですけれども、これは福島県の地図なんですね。つい最近、2月でしたかね、周辺1歳児の被曝線量がはかられたんですね。そのときの数字が南相馬市が20ミリシーベルト、浪江町が20、双葉町が30、大熊町が20、富岡町が10、いわき市が30、飯館村が30、この飯館村というのは、玄海原発と武雄市、あるいは福島原発と飯館村、ちょうど一緒のところなんですね。方向的には真反対ですけれども、だから、いつも飯館村が気になっているところですね。それから、川内村、この川内村は皆さん御存じですよ。一時帰省があったところでしょう。これを見てもみますと、ここが双葉町ですよ、原発があったところですね。少し離れた、ここですけれども、これがいわき市なんです。そして、ここが飯館村、つまりここが30なんです。川内村はここですね、いわき市の上のところ、川内村は10ミリシーベルト以下なんです。だから、一時帰省されたか知りませんが、最も低いところですね。それで、富岡町は、ここも10ですよ。そして、大熊町、すぐ隣も20ですね。これ30キロ圏外が30で、近くが薄いと、こういうことを考えてみますと、5キロとか10キロ、30キロという話はもうないんですね。

先日、家内と一緒に八幡岳に登ったんですけれども、玄界灘がきれいに見えますよ。原発と言いませんけど、それくらい近いんですね、距離的に20キロ、30キロというのは。だから、我々は放射線の実態を本当に知らなければならないと思うんですね。そして、正しく怖がるということが大事なんですね。なめてもいかん、恐れ過ぎてもいかんということなんですね。

先日新聞に載っておりましたけれども、玄海原発第1号機は廃炉へ先陣かと書いてあるん

ですね。1号機は日本で一番危ないと言われる原発ですね。それは、これ何回も話しますが、脆性遷移温度が高いということですね。脆性というのはもろくなるということですね。これもここで一回話したことがありますけれども、私が昔ヨットに乗っておったころ、ステンレスのこんな大きいのが一瞬に切れたんですね。ステンレスというのは、皆さん、外から見てもさびがわかりません。鉄はさびて腐っていきますけど、ステンレスはほとんどわからない。しかし、電食作用を起こすんですね。もろくなる。つまり、脆性遷移温度が一番高いのが原発ですね。だから、反対、賛成もちろん大事です。しかし、より今よりいい条件を探していくというのも大事だということをお願いしたいと思います。

それから、工業団地利用についてでございますけれども、これは怒られるかもしれませんが、一つの考え方ですよ、市長さんね。これ宮裾にございます武雄・北方インター工業団地ですかね、見てわかりますように、非常に日当たりがいいところですよ。こっちが南、朝から晩まで日が差すところ、高台ですね。すごいところですよ。ここに太陽光発電事業を考えたらどうなるかということですね。市長さんが初日の演告のときに、本部ダムのお話をされたんですね。1メガワット、このことについても熊本の私の知り合いに聞いてみたんです。ざくっとですね。1メガワットの仕事をするために総事業費が約3億円、敷地面積は1万坪弱、若木は6,000坪ぐらいですか、そして利益が3,000万円か4,000万円上がるそうですね。だから、今誰でも知っているのは、土地さえあれば七、八年で取り戻すということですね。4,000万円だったら大体7年半で取り戻しますからね。しかし、敷地がないですよ。それで、工業団地を考えたら5万坪ぐらいですかね。そしたら、毎年2億円入りますよという一つの話ですけどね。こういうことを時間があつたらしていきたいと思います。

それでは、本題に入りますけれども、IT行政推進についてでございます。

行政ナビの開発をしようという意味でございます。これはフェイスブック活用の連携に意欲、これ新聞に書かれたんですね、北國新聞とかですね。フェイスブック積極活用の武雄市議会が来訪ということで、実は2月14日の北陸中部、あるいは北國新聞に掲載されたんですね。これは皆さん、9人の方が行かれたときですね。フェイスブックによる情報発信の先進都市、そこの議会から武雄市議9人が金沢市を来訪、話に聞いてみますと、研修に行ったとき、もう新聞記者さんの方、待っていたそうですね。それだけ今武雄市が有名になっているということで、それは市長ですけどね、世界の市長と言われるぐらいですからね。議会はもうだめですから、恥かかんように今頑張っているつもりですけども、実は我々も北海道に行ったときに、実は熊本に頼んだ人が、北海道の教育委員会の方が佐賀県の武雄市から研修に来てくんしゃったばい——来てくんしゃったばいと言いなさんやったばってんね。佐賀弁しか知らんけんばってん、とにかく話題になったそうですよ。私は又聞きでしたので、まさかまさかごまやろうと思ったですね。しかし、これ見てわかるように、今武雄はこれだけ注目されとつとですよ。だから、我々議会はもっともっと頑張らなければと思います。市長

に負けないように、気持ちで頑張ります。

フェイスブックというかF&B（ファンバイ）ですね、F&B（ファンバイ）も市長は一生懸命されていますね。先日、インドネシアですかね、どこですか。

〔市長「シンガポールです」〕

シンガポールに行かれたところでございますけれども、そのように全国的なものにフェイスブック、これも載っているわけですね——F&B（ファンバイ）、すみません、フェイスブックとよく間違えるんですね。これに今度改めて武雄小町というのを出されるそうですね。これは馬油クリームだそうです。馬油というのは皆さん御存じだと思いますけど、小さな子どもなんか持っている人は、ちょっとやけどしたとき、これを塗れば水膨れにならんとですね。だから、馬油をどこでもそろえてある。そしてもう1つ、昔下手くそばってんゴルフをしようったんです。こっちが下手くそまめのできるとですね。そこに塗っておけば、次の日はそのまめが消えるんですね。そういう効果を持っているんですね。しかし、これべとべと感が普通あるんですね。しかし、この武雄小町は微粒子のクリームなんです。超微粒子ですね。以前これを見せてもらったときは、スプレーというですかね、スプレーだったんですね。スプレーできるほど、油は普通スプレーできない。スプレーできるほど微粒子なんです。しかし、スプレーをすればどうしても高価になるということで、クリームをつくられたそうですね。

ここですけれども、これよかじゃなかですか、「楼門に恋に焦がれし、花一輪」、これと美人ば書いてあるんですね。奥さんの顔かわからんですけれども、私が言いたいのはここじゃなくて、こここのところなんです、市長さん。武雄小町、ここですけれども、馬油クリーム武雄小町と書いてあるんですね、「武雄」。

それで、お伺いですが、F&B（ファンバイ）商品にできる限り「武雄」を使ってもらおう。もちろん、いろんな自治体としていますから、共存もしなきゃならないけど、その中でも競争は競争ということで、やはり武雄の市長ですから「武雄」を使ってもらおうと思いますけれども、どのようにお考えか、お伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄小町は試作品の段階で、私は性格も弱いですし、肌も弱いので使ってみたんですけど、物すごくいいです。これナノテクノロジーって微粒子の技術を生かして、最先端の科学というのは、ああこういうことなんだということを思って、かつ値段もそんな高くないんですよ。F B良品に出す意味というのは、基本的に私どもが手数料を取りませんので、その分だけ安い価格で出すことができるということです。これうちの看板商品として出していきたいと思っています。

一方で、議員御指摘のとおり、「武雄」をなるべく使うというのは、僕ら基本的にあれで

すもんね、なかなか表に出せない性格なので、そこは御指摘のとおり、F B良品T A K E Oの部分は「武雄」というのをきちんとつけた上で出していきたいとおっしゃるとおりだと思います。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

市長はトップですので、言えなかったら我々議会の役目かなという考えを今しております。

行政支援システムとして3D検索の活用と書いておりますけれども、手塚治虫氏、漫画家ですね、「鉄腕アトム」ですか、この方が約50年前に3Dテレビを発想、こういうものが将来出ますよと50年前に言っているんです。この発想の大事さですけども、発想が起業を生む、まず発想からだという考え方を言っていきたいと思っておりますけれども、私がよく言う3D検索、三次元検索、これ繰り返しますけれども、三次元ということは次元がある。次元は何か、これ線なんです。だから、次元検索は右か左かしかできないわけですね。次元検索というのは面ですね。縦と横から検索ができます。今、京コンピューターの時代ですか、16桁ですかね、だから、1,000万掛け1,000万だと思っておりますけれども、1,000万の横と1,000万の縦の計算が瞬時にしてできる、その時代です。それをもう一つ進めて、三次元は立体ですね。あらゆる方向の検索ができないかという考え方なんです。立体というのは、ここで何回も言いますが、縦、横、高さ、XY軸にZ軸を加えて探すということですね。先ほど言いましたように、あらゆる方向へ検索するのが三次元検索なんです。変化していくんですけども、これを紙の世界、つまり行政の中で3D検索をしようということで、2年間ここで話をしようところですね。つまり、二次元の世界で3D検索をするということで理論づけていきたいと思っておりますけれども——あつ、その前にMY図書館もここで訴えました。iPad一つあれば、わざわざ図書館に行かずとも図書館は目の前にありますよ、つまり図書館の本をみんな電子書籍化すれば、それが可能だという話をしましたけれども、これは残念ながら著作権の壁でオミットですね。この話はもうやめます。もう1つ言ったのが、これですね。穴あきシート、進化するシート、これも山崎先生に最初習ったところですね、ITとのかかわりで。私が言うことに対して、そしたらねって、このシートに穴をあけたら、あらゆるパソコンから取り込むことができますよとおっしゃったんですね。これ私、前にパネルで使ったものですね、ここで。それを持ってきましたけれども、次元と次元と考えると、演劇と映画を見ましたら、映画が二次元ですね、演劇は三次元ですよ。そうすれば、次元というのはとまって動かないのが次元ですよ。残像で錯覚するだけですかね。そして、次元は進化する、動いていくということなんです。つまり変化しない、変化するという。そう考えていきますと、このシートというのは、山崎先生が考えている穴あきシートというのは変化をしていくんですね。これ一番大事なところで、変化

するという事は仕事をするシートになるということなんですよ。仕事をさせるんですよ。これは一つのいっぱいある窓と考えた場合、北海道に行ったとき思ったんですね。パソコンでしょう、これ二次元の世界ですよ。ここはこのパネルですから二次元ですけども、実際目で見たところ三次元の世界ですね、本が出てくる場所はですね。そうすれば、本は立体的検索をするわけですね、三次元の検索をしてくるんですよ。つまり、パソコンからこれを動かすということは、静から動へ動いていくということですね。それが三次元検索をさせますよということなんです。

これ誰も行く食堂ですよ。食堂を見てあっと思ったのが、当たり前の話ですけども、食堂に食券がありますね。この食券に書いてあるうどんという文字は二次元なんですね。食券は三次元ですけど、うどんという文字は少なくとも二次元なんですよ。しかし、その二次元とこの窓でつなげば、もちろん先でおばちゃんたちがいろんなおいしいのをつくってくれますけれども、それからここに進化したうどんが出るんですね。

これは北方の宮裾にあります中村電機さんですね。ここは元コヤマエアゾールということで卓上コンロとガスボンベをつくっていたんですね。ここに充填されていたんですね、ガス充填。この方が中国はまだインフラが整備されていないので、中国に送るという話を小山社長がされた。そのとき私が言ったのは、社長さんて、中国でつくったほうがましよて、日本は高っかろうもんと言ったところが、小山社長が言われたのが、全て自動化すると、工場を全て自動化すれば人件費は関係ないですよとおっしゃったんですね。これが今も動いていますけれども、無人倉庫なんですね。これ中を見てもみますと、真ん中だけ見てもみますと、当然こういうことなんですね。両方に棚があって、真ん中を自走クレーンが走っているんですよ。そしたら、パソコンから言われたところに動いて、そこに荷物を置いたり、荷物を取ったりするんですね。パソコンの主導で二次元から三次元へ動いていくんですね。これは窓口です、ここから出入りするんですね、倉庫からのが。ここをこの指導をパソコンがするという考え方なんですね。先ほど言いましたように、静のパソコンから動のほうに動いていくんですね。これが二次元と三次元の窓口だと、つながりだということなんですね。

そうしますと、ここに穴あきシートを窓と考えた場合、市長は以前こういうことをおっしゃったことがあるんですね、概念の物証化、物でないのを物になすんだということですね。そういうことを考えていきますと、理論上、二次元と三次元の連絡窓という考え方を私はしていますけれども、市長はこのことに対してどのようにお考えか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

恐らくこれ、もう少しかみ砕いていうと、タグづけの話だと思うんですよ。タグづけで、そこには人の力というのは絶対必要だと思うんです。ですので、進化という話については私

も同感ですが、それが自動的にじゃ機械にお任せして進化するというのは、そんなことは無理だというのは、多分そこは議員と認識が違うところだと思うんですけども、そのタグづけを丁寧にすることによって、私は二次元から三次元になっていくものかなと思っております。

ちょっと間違いがあったら、また教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

そのところですけれども、私、もちろん一本指ですし、ワードしかできないんですね。エクセルができない。しかし、エクセルは皆さん知っているとおりに、表計算ができますね。そこで、ある一定の変化をしていっているんですよ。そのエクセルはまだまだ恐らく一次元の世界でしょう。これを二次元に広げて、三次元に広げて、エクセルを三次元まで広げていくという考え方なんですよ。ああ、わかった、そういうことなんですね。エクセルをいっぱい持ってきて、エクセルはよくわからんとぼってんね、今恐らく一本線、一つの線の計算はできると、それをあらゆる方向に行ければ三次元になるということですね。

これ北海道情報大学に行ったときですけれども、この方は理事長さんですね。普通は校舎をバックに写すんですよ。しかし、物すごく雪がひどかった。ちょうど私たちが行ったときだけが——松尾議員が人のよかけんと言ひよんさるけんね、松尾議員が人がよかったために行ったときだけ晴れとったんです。前も後ろも猛吹雪でしたね。話を戻しますけれども、北海道情報大学に行ったときですけれども、実は20分ぐらい早く着いたんですね。こっちのそうそうたるメンバーの方、もう座って待っとんさった。それだけ佐賀県の武雄市を市長が有名にしてくれとるということでしょうね。この方が理事長さん、この方が学長さん、この方たちが学部長さんです。そして、事務長さん、そうそうたるメンバーで待ち受けていたんですね。私も緊張しながら話しているんですけども、私たちが聞きに行ったのは、ITを社会で利用するときにはどのような指導をされているかということ聞きに行ったんですね。ITを利用するためには、ITの技術は高校で習うでしょうと、しかしそれを社会に出すためにはどのような指導をしていますかと話を聞いたんですね。そしたら、医療業界の3D、これ表示ですけども、3Dが一番多いそうですね。物すごく詳しく説明していただきました。その後、これは要らんことやったか知らんぼってんが、役所もそのうちペーパーレス時代になると思いますということから、行政文書への3D検索の利用はどうかと聞いたんです。そしたら、理事長さんは詳しくですね、いっちょんわからんとぼってんね、もう難しかとですよ。もう松尾さんはぐあいの悪しゃこう、わからんでじゃなかと思うぼってん、こうぐあいの悪しゃしよんさったんですもんね。それで、ちょうど話が切れたときに、いやすみません、私たちが聞きに来たのは、ITの社会利用するためですよと、そんな詳しゅうはなかば

んたと言うたんですね。つまり、3D表示と3D検索、3D検索には本当に物すごく敏感に反応されたですよ、ここに3D検索に行ったときですね。

まあそれは置いて、ここは図書館ですね、先ほど言いました北海道情報大学の図書館です。本は余りありません。それで、各テーブルにパソコンを置いてあるんですね。図書館といえどもわいわいがやがや、それはそうでしょう、大学ですので、ほとんどディスカッションされているところなんですね。本を静かに読む人はヘッドホンをはめとんさったです。そして、この一つの机でパソコンで景色を見ながら、状態でされているんですね。だから、静かなともいいかもわかりませんが、大学ですから、わいわい——静かに読みたい人は逆にヘッドホンをはめているという状態でした。

この中で、先ほど言われたこれを見つけたんですね、パソコンと3D検索。ここ返却と書いていますね。返却するときには目の前にA4ぐらいのマットがあるんですね。そのマットの上にその本をぽんと置けば、厚みが出るんですね。その厚みをコンピューターに入れますから、ここに返却の、それだけスペースがあるやつは出てくるんですね。そこに入れると、そこに入れれば、今度パソコンにどこに入ったですよと入っていくわけですね。10万冊の本がそういうふうにして動いている。つまり、これを考えたときには、これが3Dから今度三次元から二次元に行っているんですね、動から静に行っているんですね、ということにつながっていくと思うんですね。

これロータリーシェルフ、これは後で習ったんですけども、病院なんかには置いてあるのは、黒岩幸生のカルテと、ここに入れば、出てきて、カルテがぽっと出るやつですね。今までみたいにカルテを探すのに何分とかからんそうですね。

そこで、実はIT委員会で習ったことですね、山崎先生から習ったことですが、これは山崎先生がつくってくれたんですよ。紙を全て高速回線と書いてある、行政文書を電子化して全て高速回線に投げ込めば、必要な書類を必要なとき引き出せるとおっしゃったんですね。つまり、誰でもどこでも自由に引き出せますよ、まさにさっきの本と一緒に思うんですね。常に必要な書類を引き出せると、こう山崎先生はおっしゃったんですね。

電子辞書の宣伝のときには、高田さんかね、これだけの本がとか言いさるんですね。この電子辞書に入っていますと。つまり、電子辞書に既に入っているんですけど、考え方によりますと、この電子辞書の後ろにこれだけの本が後ろにあると思ってもいいと思うんですね。そういう考え方をすれば、先ほどと一緒に、電子辞書も二次元と三次元の連絡窓という考え方はいかがでしょうか、お伺いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さっきのエクセルの話で大体わかったんですが、もう1つ、観点で加えたいのは、私、小

池議員さんらとともに陸前高田に行ったんですね。追悼式に御招待されて行ったときに、旧市役所がもう建て壊しになっていました、跡形もなく建て壊しになっていた。旧市役所はテレビでもよく出ているんですけども、一瞬の津波で全ての書類が流されてしまったと。残っているのも印刷されているにもかかわらず読めない状態になっているんですね、泥とかいろんなものにまみれて。そのときに思ったのは、これ一石二鳥になると思うんですね、黒岩幸生議員がおっしゃっていることは。すなわち、そういった書類をきちんと残すということ、それと残した上で、それがきちんと、市役所だけじゃなくて、どこでも見れるということですので、これはぜひ進めていきたいというふうに思っています。

ただ、定義づけは、まだ議員と私とで認識がちょっと違うところがあるのは、まあこれはすり合わせが今後必要だと思うんですけども、僕らはそういう意味で広く開かれると、だから、まず検索はうちの中でも相当議論があるんですよ。ですので、検索もそうなんですけれども、我々はいち早くこれをクラウドにしていきたいということを思っていて、そこに山崎先生がおっしゃるような3D検索であるとか、そういったことがそのインフラでどういうふうに見れるかということを進めていきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今2つのことを一緒に言っておりますので誤解を招いているかわかりませんが、これも実はタグ打ちなんですね。自由に出来ますよ、びっくりするぐらい。私は最近パワーポイントにはまって、幾ら張っていても思うとおりに自由自在に出るんですね。だから、自由に引き出せると、それが1つ。

もう1つは、エクセルが進化する、今回そこをぜひ市長に勧めていきたいですね。それが二次元と三次元という話を今言っているところですけども、この穴あきシートの窓ですけども、これを例えば子ども手当の窓と考えた場合、これは電子辞書が後ろに入っているという考え方をしていただくんですね。そうしますと、高速回線でもいいわけですね。そうしますと、子ども手当の場合、仕事の手順書として世帯主を探しますね。そして、家族構成を探します、さらには所得を見ます、そして手当を見て総額が出るという手順になりますね。例えば、家族に5歳未満が何人おるか見ますね、所得制限250万円はだめですよと見ます。そういうのを計算して手当を掛けて総額が出るんですね。この仕事を進化していくと。先ほど穴あきシートで変わっていきますよという考え方をしてもらいますよ。そうすれば、このシートというのが行政ナビですよ。昔ここでカーナビという話をしましたね。カーナビという話をしたとき、宮口さんが私に鋭く言われたんです。カーナビというのは目的が決まっていると、場所が。だから、2点を結ぶだけで簡単にできますよと、行政というのは先が決まっていらないんですよと、だから、できないとおっしゃったんですね。しかし、私が言っ

たのは、それ進化していくんですよと、山崎先生から習ったように、進化していくんですよと。そのとき私が言ったのは、ジネンジョ、山芋、昌宏さんが得意ですけどね。ジネンジョは、点で終わればここから根がずっと下に行くんですね。石に当たった場合、これは自分で判断してここに行って、また自分で判断してずっと下に行くんですね。進化していくんですよ。だから、こういうことをつけていけば、エクセルをいっぱいはめたようにですね。そういうことをつけていけば、この仕事ができるということなんです。カーナビとは違うところですよ。つまり、行政は進化していきますよ、これが私が前から言うマイソフトでございますし、市役所職員さんの仕事の一部、例えば、そろばんのかわりに計算機を使うような、そういう進化する仕事の一部を支援するソフトができていくということなんです。

これは電子化された行政文書ですけれども、家族構成がわかれば、選別すれば直ちに年齢制限ができますね。所得把握ができますから、直ちにこれは所得制限ができる。さらには、手当の付加、これ人数がわかりますと掛け算をすれば総額が出ますね。これが進化することですし、これを行政ナビにさせようというんです。エクセルみたいなのをつくっていこうということですね。進化するソフトができるという山崎さんの話の上に乗って話をしています。まだつくってもらっていないんですけどね。そうすれば、これができれば直ちに地域別、あるいは50音別に分けれる。これにプリンターをつければ、直ちに通知書が個人に行くということになるんですね。この行政ナビなんです。

そこで、以前からこのことについて行政ナビをつくらうという話をしてまいりました。役所としてもある程度の考えはつくってこられたと思いますし、特に今度は、少し以前からこのことについてぜひ聞きたいと言っておりますので、執行部として今どのくらいの考え方がなされているのか、具体的な答弁を求めたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず私どもとすれば、もうこれは報道もされておりますけれども、千葉市、奈良市、福岡市、そして武雄市で4首長によるオープンデータ、行政のデータの推進の協議会を立ち上げました。これで武雄市の担務として、今我々が実際やっているのは、そのプロジェクトチームを今つくっています。そして、これは一遍に行政文書をどんと載せるということよりも、これはうちの中の指摘があつて、僕もそうかなと思っているんですけども、より有用性の高い、役に立つ、すなわちオープンデータ、ビッグデータですよ、というのを先にどんどん上げていこうということ、それに応じて、今度政策コンテストを我々やろうと思っているんです。それで、こういうソフトのものについては、どんどん応募をしてもらおうということを思っています。これはひょっとすると、武雄市から出すかもしれない。ですので、山崎さんとよく相談をして、我々は実態ですね、ソフトの開発というのはなかなか難しく、

使えるデータがないとどういうふうにできるかというのはなかなかわからないんですよね。ですので、それは我々は卵と鶏ではないんですけども、行政としてはどんどん情報を上げていくと、それによってソフトが試験的にどういうふうにかちんと作動するかということをやっていきたいと思っています。

それともう1つ、これ山崎さんと話していてよくよくわかったんですけども、皆さんたちは窓口の奴隷です。ちょっとお時間いいですか。

(モニター使用) これ転入。僕も黒岩議員さんに負けないように職員がつくったやつを言いますが、転入手続がどうなっているか、これびっくりしますよ。これまず異動届を記入して、転入者が市役所に来なきゃいけないですね。転入届を、受け付け入力をそこでしなきゃいけないと。そこで、国民健康保険とか小・中学校の転校であるとか、市民課で手続を完了しますよね。そこで、ごみの出し方等もそこでまたお知らせする。これ窓口が別の場合があるんですよね、市民課の中でも。そして、関連の手続でこのように後期高齢者医療とか退職者の医療の話であるとか、介護保険とか予防接種というのを、本当にこれはいろんな窓口で聞かなきゃいけないというふうになるわけですね、窓口がばらばらに。これは今までそういうシステムだったからできなかったのが、山崎さんとよく話をしていると、いやこれ一括してできるということで、今実は杵藤の、これはここで言う話じゃないかもしれませんが、でも、武雄市のデータというのは杵藤広域圏ですよ、私、管理者ですけども、広域圏の電算センターでやっているわけですね。ですので、今度これが抜本的にクラウド利用で変わります。変わったときにきちんと黒岩議員さんがおっしゃっているような3D検索であるとか、そういったことがきちんとできるようにシステム設計をしてほしいということを私の名で要請をしています。ですので、今ITでここまでもう可能なんですよ。

話を戻すんですけども、今、庁舎の話が進んでおります。私はどういう形になっていったにしても、基本的に窓口を廃止したいと思っていますんですよ。お父さんがお葬式でお見えになった方々が、これは武雄市じゃないんですけども、もうたらい回しされた。しかも、市民課からどこかに行くときに、どこかの課では住民票をちゃんと持ってきてくださいと言われてた、これはおかしい話なんです。悲しみに打ちひしがれて、窓口を転々として、そこでまた持ってきてくださいって、そこで四、五十分かかったと言っているんですよ。だから、それはおかしい。我々は納税というので税金をいただいているわけですよ。ということは、最良かつ最高のサービスをしなきゃいけないと、予算とか制度の中でしなきゃいけないということですので、黒岩幸生議員がおっしゃっているようなシステムを使って、本当に心の通った、血の通ったサービスをきちんとするというので、市民がお越しになるじゃないですか、そのときに座ってもらって、御用向き、転入で来ましたとか、あるいは引っ越しで来ましたとか、あるいは母が亡くなったのでその手続に来ました、あるいは銀行の口座開設でもいいんですよ、そこを一元的に基本的にできるようにするというのが私の次の目玉でも

出していきたいと思っています。

ですので、アップルストア、近くだと福岡天神にあるんですかね。あそこは窓口も何もないんですよ。支払いもレジも何もないんですよ。その場で商品が買えて、その場で支払いもできるんですよ。それが今ITでもう可能なんですよね。ですので、私はアップルを起こしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長がおっしゃるように、最初に言ったのが総合窓口、この2年の中で私自身も変わったんですけども、総合窓口からワンストップ、ワンストップから今度ノンストップになっていくんですよ。そういうふうに変わって、もうすごいですね。東京に行って、Suicaの話をしましたですね。一瞬に判断するんですよ。あれができる時代に、すみませんが、市役所は長過ぎるんじゃないかと、仕事で来て40分とかですね。

先ほど、児童手当ですね、私、子ども手当と言いましたけど、この児童手当についても、今これだけのシステムが市役所は動いていますけれども、市民はもっとこっちにおるんですね、もう一つ横におるんですね。つまり、市民が望むのは、これは児童手当ですけども、市民が望むのはこういうもので、即通知が来るというように、例えば、転入届に來ます。そして、私が四千三百六十何番地とききましたら、直ちに例えばごみの収集日いつですよと、ステーションはどこですとわかるのができるわけですね。だから、ネット検索すれば京の時代ですから直ちにできる。人間だったら時間がかかるということですね。だから、ぜひともITに変えていこうということなんですから、よろしくお願ひしたいと思います。

空き家対策、これもついでです。ついでというのはおかしいですけども、空き家で非常に今伊万里とかいろいろ組んで、悩んでおられると思いますけれども、例えば、私から見た空き家対策、武雄の仕事の手順書を考えてみますと、まず検索の方法として航空写真を持ってくるんですね。この航空写真というのは何枚あってもいいんですよ。1枚じゃなくていいんです、私、1枚1枚で前思ひよった。しかし、最近パワーポイントしてみて、どこからでも何でも出ますからね、タグさえ打っておけばいいわけですからね。タグというのはお年寄りがわからん、本でいうしおりみたいなもんですかね、しおりということですね。つまり航空写真で家屋に全てタグを打つと、そしてほかに住所録と字図をずっと重ねていって、いろんなのを重ねていくんですね。今度は引き算です。それから、生活の動き、いろんな生活の動きですけども、例えば、保険とか住民票などを引いていけば、これが選別していけば、これが空き家の箇所につながる。つまり、全てから引くことが簡単にITの世界でできるということですね。書類を探さんでよかよということを頭の中に、念頭に変えにゃいかんですね。それで、これも暗算、そろばん、計算機とか、ちょっとはしよりますけれども、暗算、

そろばんは比較、検討、選別をする、そして答えを出すという話をしましたね。しかし、計算機というのはもちろん真っすぐ答えが出るんですね。じゃ比較、検討、選別を計算機にさせよう、つまり行政ナビにさせようという考え方なんです。エクセルをいっぱい持ってこいということですね。

それで、市長にお願い、これから先ですけれども、市役所の仕事は実務ですね。ソフト開発は山崎さんがしてくれるでしょう。いろんな発想を持ってくれば、これがちゃんと回ると、市役所のところをしてもらうということですね。そうすれば、絵で描きますと、仕事、実務、発明、開発というふうになりますね。これ今離れておりますので、これを縮めるんですね。それだけではまだだめなんですよ。ここに大事なのは、組織的支援が要るんですね。この組織的支援が入って、これでもまだだめなんです。これがちゃんと回らなければならない。きれいに回ることが、これが私は企業だと思うんです。つまり市役所の仕事を、山崎さん、発案者一緒に回って、組織的支援ができて出ていくと思うんですね。そこで、先ほど言いましたように、このことについては答えてもらいましたけれども、行政の部分でぜひとも協力してほしい、一緒にやっっていこうという意味ですね。先ほど市長は電算センターまで踏まえてやっっていくということでございましたので、この質問は取り下げますけれども、ぜひ前向きに頑張っていきたいと思います。

続いて、ごみ処理場の建設についてでございますけれども、これは宮本議員が出された栄八通信ですね。25年1月(2)、2番目かもしれませんけれども、西部広域ごみ処理が書いてありましたので、誤解があるかわかりませんので、皆さんに教えたいと思うのは、「入札参加1社のみ」、確かに1社なんです。ただ、私が以前から言っていたが、これは知らなかったんですね、宮本議員がこんな考えをされているというのは。それは私も佐賀西部広域環境組合、伊万里の組合にここに来てもらったんですね、事務局を。皆さんに意見を伺えないですかと聞いたとき出なかった。しかし、こうおっしゃっているんですね、「処理方式を限定すると」「選択肢が少なくなる」、これは意味はわかりますよ。しかし、流れとして大きな間違いなんです。つまり22年1月29日ですよ、佐賀県西部広域環境組合ではセメント原料化方式にすると決めておったんですよ。ほぼ決定やった、それはなぜか、資源化が目的だったんですね。その後に、私は4月から安全・安心が目的だろに変えたんですよ。つまり、目的を持って選別をしていくんですね。ここ違うんですね。しかし、実はあったんですよ、処理方式を限定せずに入札したところが。新聞にA市のことが書いてありましたので、私は知りませんでしたのでコンサルに聞きました。ちょうど伊万里に来るということで、コンサルに聞いてみますと、コンサルが言うにはA市だけじゃなかったんですね。Y市もございました。そこではガス化溶融炉、シャフト炉、ストーカ、灰溶融炉も一緒に入札をしているんですよ、考えられないような。なぜですかと聞いた、私の頭では考えられない。つまり、ダンプカーと乗用車とスポーツカーと、目的もはっきりせずに入札したのと一緒なんで

すよ、そういうことなかやろうもんと。あったんですね、A市とY市はされています。そして、わけありですよとおっしゃった。わけありを聞いたんですけど、ここでは披露しません、わけありですよ。

皆さんもっとおかしいのが、下の白いほうの丸ですけれども、熔融できていないものは違約金を払うというのがここに入っているんですよ。これはびっくりしますね。熔融できてなかったら、つまり高温処理ができてなければ、入札自体されんですよ。参加されんはずですよ。しかし、それを熔融できていないものは違約金を取る、トン当たり1万7,500円だそうですよ。その後に、私がじゃ伊万里はどうやったですかと聞いた。コンサルの方が私の顔を見てまじまじとびっくりされたんですね。伊万里はどうやったですかと聞いたもんやけんが、じっと見て、冗談のごとて、議長さんの——私は伊万里で議長しよるけんね、議長さんから言われるとは思わんやった。あなたが——私ですよ、あなたが平成22年の6月議会と9月議会に安全・安心をしっかり言ったと、ダイオキシンを言ったと、あれを聞いていて、我々も原点に戻ったと言うんですよ。つつい技術論とかそっちに走っていったけれども、安全・安心を置き去りにしてきたと。だから、あれで安全・安心について変わっていったんですよと話がなされました。

つまり、処理方式を伊万里が決定したのは、先ほど言いましたように、地元の安全・安心、それで伊藤さんは頑張ってきて、財政上して、予定価格を大幅に下げたんですよ。それを3年かけて議論してきたんですね。

ここです、「1社のみ参加」、確かに1社のみだった、残ったのは。残念かどうかわかりませんが、落札率は98.88%、これが伊万里と鹿島で12月議会ですか、質問があったんですね。98.88%で、余り高率やろうもん、談合やなかるうかという話ばってん、冗談じゃなかですね。談合ができないように、むしろ予定価格を伊藤さんが大幅に引き下げたんですよ。予定価格を徹底的に引き下げたから余裕がないから談合できんです、皆さんね。その結果が98.88%、これも後で話します、時間が来ればですね。

ごみ処理場建設について、これまでの経過を踏まえて、価値観を共有したいと思います。

ごみ処理というのは、御承知のとおり、当初は埋めていた、堆肥化していた、そしてその後、コンポスト化、これ市長さん知つとですか、二又にあったと。ここやったですね。当時、あの四角のコンポスト、あれどこでも使われると言いよったばってん、捨つところのなかったですね。その後、焼却処理になりました、今杵藤ですね。焼却処理は御存じのとおり、流動床とストーカ、うち流動床ですね。そして、ここですけれども、平成8年以降に政府は予算を出すときに、高熔融処理しなさいと。そうすれば、直融と灰熔融、直融は真つすぐ溶かすやつ、灰熔融は一回燃やしてからその灰を溶かすやつですね。それはなぜか、なぜ高温処理が必要かということ、平成8年ですけれども、焼却灰の無害化なんですね。ダイオキシン類を1,300度以上で分解する、2つ目は重金属の封じ込めなんです。つまりガラス状の物

質になるんですね。泥を高温で処理する、焼き物ですね。焼き物会社では高温で、1,300度以上です。そのため固くなりますね、ガラス質になります。そうすれば重金属を封じ込められますよ。さらには、焼却灰がこれで少なくなります。そして、焼却灰を有効利用できますよと、これはちょっと疑問ですけどね。この4つがうたわれた。しかし、特に焼却灰の無害化と重金属の封じ込めが平成8年に高温熔融しなさいと決めたんですね。しかし、熔融処理を必要としない例外規定もありますよ。それは平成16年、8年に決めて16年に主幹会議をして、18年ぐらいから条例ができたと思いますね。例外1、セメント、ここでセメントが出てくる。例外で出てくるんですよ。ちょっとこれは意味深なのがあるようですけども、まあ例外1がセメントや各種土木資材等に再生利用ができる場合、例外2は最終処分場が15年以上ある場合、例外3というのは離島とか不可能な場合、つまり例外1は再生利用、処分場、そして離島など不可能な場合ですね。これが平成22年1月29日まで了解されていたセメント原料化システムです。

4市5町で燃やした残りの灰が9万立米、そのうち4万立米をセメント会社、これ前に私がここで使ったパネルですよ。セメント会社に持っていくと、残りの灰を埋め立てると、松浦地区に埋める、こういう方式なんです、セメント原料化方式。これを金で換算すれば、トン当たり1万7,000円ぐらい燃やすのにかかりますよと、これは当時、杵藤クリーンセンターに聞いたんです。そして、セメント会社に資源としてやるんですよ。トン当たり2万5,000円、これを我々が払うんですね。処理してもらおうですよ。資源ならば向こうが買わにゃいかん。それで10億円なんですね。この10億円もったいなかるうもんと。さらに、輸送費が、これもうち持ちですよ。それはおかしかろうもんで、ここに5万トン埋めるんですから、またお願いして、松浦地区にあと10億円やるから埋めてくれと言わんねと言ったのが22年6月議会の私の質問です。

しかし、直営は幾らかかるかといいますと、トン当たり2万円、ただしこれは非常に難しい面があるんですね。ごみも計画収集が物すごくいるんですよ。ごみの量を安定させとかにゃいかん。そりゃそうですよね。100つくるとに70しか来なければ、この値段は2万円が3万円になりますよね。それは計画収集をちゃんとせにゃいかんということですね、というのがセメント原料化方式だったんですね。その年の8月24日、うちの家に地権者の方が来られました。それは松浦地区最終処分場に関する陳情書というのを持ってこられたんですね。厚生省は平成8年に焼却残渣の無害化、先ほど言った分ですね、焼却残渣の無害化、熔融化及び熔融固形化処理を提唱した。つまりダイオキシン封じ込めですね。そのためにはスラグ化が最適だと推奨していると。ちゃんと地権者のここに書いてあるんです。そして、私たち地権者、下流地域住民の将来的な安全・安心を考え、最終処分場に埋める灰はガラス状の熔融したスラグにしてほしいという陳情書を出された。重金属を封じ込めてほしいという陳情書なんですね、22年の8月24日。これに対して、ここですけれども、佐賀県西部広域環境組合

の事務局から、各担当課長様と書いて、文書が回った。怪文書と言えるものがね。これは翌日の22年8月25日にこの書類が回された。この中身を大きくするとわかりますけど、人権侵害もいようなことが書いてあるんですね。それはそれとして、当時の事務局はこの請願を無視すると、こがんとは聞かれんということで担当課に流されたんですよ。

8月24日、その後、亡くなりましたけれども、伊藤事務局長が、うちに来られました。伊藤さんが、つき合いですので。そして、地図を見せていただいた。あの人は10月1日に行ったと思いますけれども、地図を持ってきて、ゆきちゃん、がんしとるばいて、見れば、その地権者の方の土地が半分以上ぐらいあるんですよ。だから、これを無視しては処理場ができないということで、ぜひともその陳情者に会いたいということでうちに来られた。私も一緒に行って、それで無理なのは聞かれんよと、しかし、聞かれることは聞くよということでテーブルにのってくれという話をこのときされたんですね。余り言いたくないんですけども、だから、そういうことで非常に局長は忙しかった、10月に行かれても。当時、再検査を言われとったんですよ。しかし、忙しさにかまけてじゃないですけどね、次に行ったときが、御承知のとおり、手おくれやったんですね。こういう事務局対応、だから、自分が事務局に行っても一人だったんですよ。地域住民軽視ですよ。井戸水を飲むときには井戸を掘った人の苦労を思い出せというように、最終処分場いいですよと言ったのは松浦地区だけなんですよ。その松浦地区の住民の方の地権者の方を無視せろという、この事務局態度は絶対許せない。当時、樋渡市長はその対応を知らされていたかどうか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今でも伊藤さんには申しわけなく思っています。伊藤さんは御存じのとおり、市民病院の民間移譲で私の右腕となって辣腕を振るわれて、彼がいなかったら今の病院というのはないというのは、議員の皆さん、あるいは市民の皆さんたちもそれは認識を共有していただけるものと思うんです。私は、その実力を買って、当時、物すごくもめていたんですね。これ難しい話なんですよ、やっぱり。ですので、私はエースの伊藤を、これ非常に僭越だと思いましたが、伊万里に事務局長として頼み込んで送り込みました。まさに私の右腕として送り込みました。それで、伊藤は私に心配をかけたくないんでしょうね。うまくいっていますということを書いて、これが露見したときに、僕は伊藤を怒って呼びつけました。何だこれはって言ったときに、今でも思い出すけど、僕に深々と頭を下げられましたよ。彼は一切事務局の何がしのせいにはしませんでした。全て私の責任だって。侍でしたよ。それを思うと、当時、事務局の一人が、多分伊藤を除いて全てそうだったと思うんですけども、地域住民軽視、行政の論理で押し通そうとしたということについて、本当に今でも私は腹立たしく思っていますよ。これがその後も続くんですよ。ですので、今、伊藤は非常に残念がっている

と思いますよ。自分がいたら、こうはならなかったのにつて。ですので、僕らは伊藤がどう
いう——呼び捨てで申しわけない、部下ですので。伊藤がどういう思いでこれをまとめよう
としたかということをもう一回きちんと思いをはせる必要があると思っています。

ですので、私は当時、事務局対応については、この件については後で伊藤から、しかも、
自分で責任を全部負いかぶさった上で聞いたので、正確には知りませんでしたけど、そのと
きの伊藤の気持ちを思えば、これは繰り返しになって恐縮なんですけれども、我々は伊藤の
遺志をきちんと引き継いで、しっかり対応しなきゃいけないなというように思っております。
でも、今事務局も大分変わってきました。変わってきましたので、それで、今、岩瀬を、伊
藤に次ぐエースとして今活躍してもらっていますので、私は岩瀬には全幅の信頼を置いてい
ますので、我々とすれば岩瀬がしっかり働きやすい環境をきちんと整えてあげること
について、今、日々心を砕いているところであります。岩瀬に期待をしています。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

本当にありがとうございます。

今、岩瀬君が、もともと伊藤さんと仲もよかったし、いろんな考え方も一緒ですし、今頑
張っております。そう言いながらも、やはり4市5町でございますので、大変意思疎通がで
きないところがあります。それは私も一緒に頑張っていきたいと思っておりますけれども、本当に
地元の安全・安心のため高度な環境技術を求められたんですね。こればせろ、あればせろと、
非常に難しい注文をされております。先ほど言いましたように、4市5町の財政上を考え、
本当に切り詰めた予定価格を下げられたんですね。最後の1社まで逃げるのではないかと
いうぐらい、技術を上げて価格を下げたんですよ。しかし、それでも新聞に書かれて、1社の
みだと、談合みたいに書かれますからね、情けないんですけどね。

これは後で話しますが、そのためにせっかく奔走された伊藤事務局長に敬意を表します。
心より伊藤さんの御冥福と御霊が休まらんことをお祈りいたします。

それまで、先ほどいみじくも書いてもらったからわかりますように、目的を決めて、ひど
く言えば、どこの処理場に決めるといって検討項目を書いたようなのがこれですよ。セメン
ト原料化方式に決まるときに、検討部会での評価項目というのはこういうものだったんです
ね。公害防止とか温暖化負荷とか最終処分負荷、資源エネルギー負荷、安全・安定10点、こ
う書いてある、これが30点です。100点ですね。こういうもので審議をして、あれが悪い、
これが悪いにして、最終的に資源的にセメントしかないよとされたんですね。よく見てくだ
さい、ここのところ、赤をつけました。安全・安定稼働はわずか10点ですよ。今考えたらぞ
っとしますね。安全・安定稼働が10点で、とぼけるなということですね。地域住民に配慮し
たというよりも4市5町に配慮してもこういうことにはならない。つまり安全・安心・安定

稼働が60点以上なからんばいかんですよね、半分以上。私はこれが全てと思っているんですよ。安全・安心・安定な稼働が全てと思うんですよ、少々高くてもね。それが見てください、わずか10点で計算されておるんですよ。そういう評価をしてセメント原料化になったんですよ。じゃ安全・安心・安定な稼働は何かということで3年間かけて伊藤さんを先頭にして頑張ってきた姿なんですね。

市長にお伺いですが、セメント原料化検討時点で松浦地区の安全・安心、再資源化が重要視されてなかったかという心配をしますけれども、どのようなことでしたのか、答弁を求めます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も当時——ちょっと宮本議員、よろしいでしょうか、答弁中ですので。あなたの言っていることが物すごく入るんですよ。

再資源化については、当時、私も副管理者ですので、この議論が一番多かったですね。ただし、この中でやっぱり問題点が出てきて、コストの問題です。コストの問題が出てきたということと、もう1つは出てきた再資源化の物質ですよ。これを県外に出さなきゃいけないという話があって、まさにこれ核燃料の、NHKでも特集があったように、あれを県外に出すような話と同じようにとらえられていて、これはなかなか問題でしょうという話があったんです。その中で、当時、福島原発がああいうふうになる前の話でしたけれども、議論の中で、これも一回ちょっと安全・安心に見直そうよということを最初に言ったのが伊藤さんだったんですよ。伊藤さんがおっしゃって、最初どうかなと思っていたんですけど、だんだん伊藤さんが切々と話をされて、それはやっぱりそうだよと。これ恐らく福島原発がああいうふうになった後だったら、この議論というのは誰でも話ができます、安全・安心が一番だって。しかも、そういった再資源化されたごみを県外に持っていくのは、それはナンセンスな話ですよっていうのは、今だったら言えるんですけど、あの当時、そうなる前に伊藤さんがそういうふうにしたというのは、やっぱりさすが伊藤だと。

それで、さっきちょっと言い忘れたんですが、これ大事な話なんであえて言いますが、僕、病院に行けてしよっちゅう言っていたんですよ。顔色がやっぱり悪かったんですよ。それで、病院問題で活躍をしていたときは、もっとふくよかで迫力もあったんですけど、だんだんだんだんやせていって、病院に行けと言ったときに、いまだに忘れられない言葉があって、私はこれがめどが立ってから行きますって、これがめどが立たない限りは、私は病院は行けません、私は今までいろんな病気も克服してきたので、私はもう大丈夫ですよということを言って、あのときにいまだに後悔していますけど、早う行けともっと言っておくべきだった、首に縄をつけて、黒岩さんと僕とで引っ張っていけばよかったと思いますよ。

それはもう詮ないことではあるんですが、それだけ伊藤がこの事業に心を砕くどころか、生命を賭して頑張っていたというのは、ぜひ市民の皆さん、議会の皆さんたちも認識をしてほしいなというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

今、市長が言われたように、一生懸命仕事をしたということを取り上げたいんですよね。決して情にすぎる気も何もないですけども、安全・安心であれだけ頑張ったのはほかになんかと思うんですね。

これはダイオキシンがどのように論議されたかということですけども、私たち建設常任委員会はあちこち行ったんですね。まず研修しようということで、これは姫路市にありますエコパークあぼしというところに建設常任委員会で行ってまいりました。ダイオキシン問題ですけども、ダイオキシンというのは、200トン以上は1立方メートルに0.1ナノグラム以下なんですね。うちも0.1ナノグラム以下なんですね。0.1ナノグラムというのは、ナノグラムってなかなかわからんですね。0.1ナノグラムというのは10億分の1グラムなんですね。ナノグラムの世界はですね。そうしますと、1メートル、1メートル、1メートル箱に10億分の0.1、つまり100億分の1グラムなんです。それはわからん。これ単位を変えたらこうなるんですね。1キロ、1,000メートルの中にそれでも0.1グラムあるんですね。これもまたわかりにつかいですね。それだけダイオキシンは猛毒であるということですね、ベトちゃん、ドクちゃん、遺伝子に傷つける、カネミ油症問題、みんなダイオキシンですよ。これが余り議論されていないようにしか見えない。それは先ほど言いましたように、溶融できていないものは違約金を取るでしょう、溶融できてなかったらダイオキシンが出るんですよ、当然のことですよ。

これもエコパークあぼしの例ですけども、法規制は0.1ですね。そして、あぼしでの自分のところの規制は0.05ナノグラムなんです。つまり、ダイオキシンというのはいつも言うように自然界に存在しませんね。人類がつくり得た化合物なんですね。ダイオキシンが猛毒であると片時も我々ごみを扱う者は忘れていかんと思う。その測定値、0.000034ナノグラム、もう天文学もはるかに超えた、ほとんど出ない炉なんですね。エコパークあぼし、そういうところにやっぱり見るべきなんですね。

これはうちと一緒に焼くんですよ。だから、ごみ焼却、ダイオキシン、当然しょっちゅう出なければならぬんですけども、こういう資料が本当に見比べられたのかという疑問を持ちますけれども、いかがでしょうか、答弁を求めます。担当課長でよかったですよ。

○議長（杉原豊喜君）

石橋まちづくり部長

○石橋まちづくり部長〔登壇〕

ごみ焼却とダイオキシンの件でございますが、これにつきましては提出されておりました。ただし、環境省の基準につきましては、説明がっております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

それが部長さんね、それが私が言うように、目的を持たずに入札するじゃないですけど、論議すればそうなるということですよ。だから、ダイオキシンが一番難点と思いながら行かなければ、だから、最初一番は再資源だったんですよ。もっと言えば、怒られるかわかりませんが、福岡県が一番困っているのがセメント会社ですからね。

これが火力発電と廃棄物発電の違いですけれども、これもあぼしですね。見ていただきたいのは、ここですね、皆さんね。これ建設常任委員会で行って来て覚えたんですけれども、火力発電といえども43%しか効率が無い。ごみでも10%以上ありますよということなんですね。これからごみ発電は絶対注目されますけれども、今言われているのが、発電端効率23%を目指して頑張っているという話が、これはインターネットで引けば出てきます。シャフト炉式ガス化溶解炉の特徴を生かした高効率発電への取り組みということで載っております。

これはあぼしに聞いたんですけれども、平成23年度の発電量、これは事務局で先日この分は、22年は聞いてきておりましたので、調べていただきました。

23年度の発電量4,173万キロワットアワーですね、これは400トン。キロワットアワーというのは電力ですよ。1キロワットを5時間つければ5キロワットアワーの電力が要りますよという意味なんですね。ワット数に時間を掛けたのが電力ですね。だから、4,173万キロワットアワーが400トンで出ているということは、うちは200トン、200トンであれば当然2,000万キロワットは出ますね。お金が、電気事業買取制度価格というのが、何でん40円と思うたら違うとったですね。太陽光が42円、キロワットに変わりますけれども、風力が一番高い、57円ですね。そして廃棄物燃焼発電、これもいろいろあるんですよ。うちの場合は17円で買い取ってくれるんですよ。そうすれば、2,000万キロワットが出る、17円だとすれば3億4,000万円、発電エネルギーが出るんですね。そういう売電価格の比較検討はされていたのか。

こうしましょう、時間がないですから、されていなかったと思うんですけど、されていたら手を挙げてください。——されていないですね。

だから、こういう大きなものを逃した。つまり、最初から言うように、わけありの入札だという話をしましたね。決めているからこうなっていくと思うんですね。先ほどの評価点も一緒ですよ。しかし、こういう大きなものが隠れているんですよ。毎年ですよ、3億4,000万円は。もちろん、そのうちの約4割、1億4,000万円ぐらいは自分のところで使えま

すからね。あと2億は売電できる。灰溶融はこの電気を使って溶かすんですよ。だから、今もうほとんど灰溶融は撤退でしょう。もったいないからですね。そして、高温が出ないのでスラグの質が違うんですね。これを我々研修で皆さんの税金を使って行って覚えてきたところですよ。

そこで、1社入札、落札率98.88%、これは伊藤さんが頑張った成果ですので、ぜひとも皆さん覚えていただきたいと思います。

市長さんね、これ伊万里の実際やった、ここは入札結果と調査兼報告書、これはほかの事業ですよ。ほかの事業ですから、こういうふうになるということですね。ここは入札参加者が7業者あります。このところでは予定価格と最低制限価格がありますね。ここに落札価格が入っております。そして、ここが入札金額が出されている。この枠の中ですけれども、これを見ますと、このときは予定価格が4,600万円、そうすればA、B、C、D、E、Fの7業者がこういう入札がずっと入っているんですね。最低制限価格が3,800万円ですよ。そうすれば、3,800万円切っていないので失格になりませんので、落札になりますね。部長さん、これでよかでしょう。——ここにありますね。

このときは落札率が82.8%になります。しかし、伊藤さんはこれじゃないですよ。こういうふうに頑張った、予定価格を下げた、3,900万円落としていった、そうすればここから上はできないので、入札を辞退するということになるんですよ。辞退する、そうすればこれは同じ金額でも、今度は落札率が97.7%になるんですね。こう変わっていくんですね。だから、この歩掛かり表というんですか、それで4,600万円が出る。この差が大きいから、武雄市はそういうことないですよ。大きいから話し合いをして、高どまりで落とそうというのが談合でしょう。彼はそういうことを絶対させんために頑張って頑張って落としてきたんですよ、98.88%でとれるようなね。だから、それは彼の名誉のために言っておきますけれども、1社落札で98.88%、よく頑張ったなと私は言いたいんですけど、市長どう思いますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この経緯は私も後で知りました。伊藤が本当に頑張っていったというのは、議員がおっしゃるとおりなので、やっぱり思うんですけど、僕がランニングしていたときに、中学生から言われましたよ。余り市長さん、栄八さんの通信ば余り上げるぎいかんて、まともに読みよる人は誰もおらんてということを言っていましたので、それもそのとおりだと思っていますので、多分伊藤も今、西方浄土ではこのやりとりというのは笑って見ていると思っています。

ただ、我々としては、先ほどの黒岩幸生議員の御質問と私の答弁で伊藤の名誉は完全に回復されたというように認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

23番黒岩議員

○23番（黒岩幸生君）〔登壇〕

これシャフト炉ですね。これ間欠出湯ですけども、これ電気のでき方ですけども、ちょっと見とってください、皆さん。こういうことで、ここに発電機を回して電気エネルギーが来るんですね。ごみを高温で燃やして、電気エネルギーで回収するということを外せば、それは地球温暖化は悪いわ、どこが悪いわ、金はかかるわで大変なことですね。一番大きな電気エネルギー回収ということをうちはやっていくんだと自信を持っていいと思うんですね。つまり、2,000万キロワット掛け17円、3億4,000万円の発電エネルギーを持つ施設ができつつあるということを最後に申し上げまして、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で23番黒岩議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため、10分程度休憩をいたします。